



良い土とは・・・水はけが良く、水持ちし、有機物を多く含んだ土
そんな土を作る事ができればとの思いからできた。

土作りからはじめる野菜作り

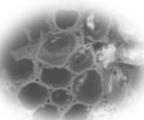
土壌改良資材：竹王「発酵熟成竹パウダー」

乳酸菌発酵



独自の発酵方法により、孟宗竹を100%原料とした無添加の乳酸菌発酵竹パウダーです。~550億個/gの乳酸菌があります。

製造方法



綺麗な竹を選別し、多孔質を生かした粉碎方法により $700\text{m}^3/\text{g}$ の菌の住処を実現！竹に含まれる乳酸菌で嫌気発酵させました。

効果

イネ科の植物である竹はテンブンが豊富にあり、そのテンブンを乳酸菌等の菌がフドウ糖へ分解する事で、植物が根から糖分を吸収し糖度が上がります。菌が活発化する事で、ネバネバした成分を分泌し、その成分が土をくっつけ団粒化すると言われています。

使用方法



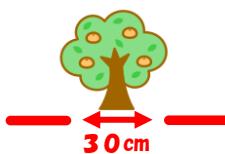
土にすき込む

- ・基本は $50\text{g}/\text{m}^2$
- ・プランターは土の量に対し10%
- ・夏野菜は $100\text{g}/\text{1反歩(10a)}$
- ・冬野菜は $50\text{g}/\text{1反歩(10a)}$



土をそのまま覆う

- ・苗の高さと同じ幅の間隔を開け散布する。
- ・苗と同じ幅で適量散布する。



果樹栽培

- ・果樹の根元から30cm離して散布してください。
- ・ $70\text{~}80\text{g}/\text{1反歩(10a)}$
- ・果樹には竹王のマルチングが有効です。



稻作栽培

- ・田植え1ヶ月前の荒搔き時に散布しそき込み下さい。
- ・育苗用の培土に20%混ぜ3週間堆肥袋等で嫌気発酵し覆土として使用する事で、根張りの良い苗に成長致します。

※3つの注意点

①消毒剤の使用後、1週間以上の間隔を経てから竹パウダーを使用する。

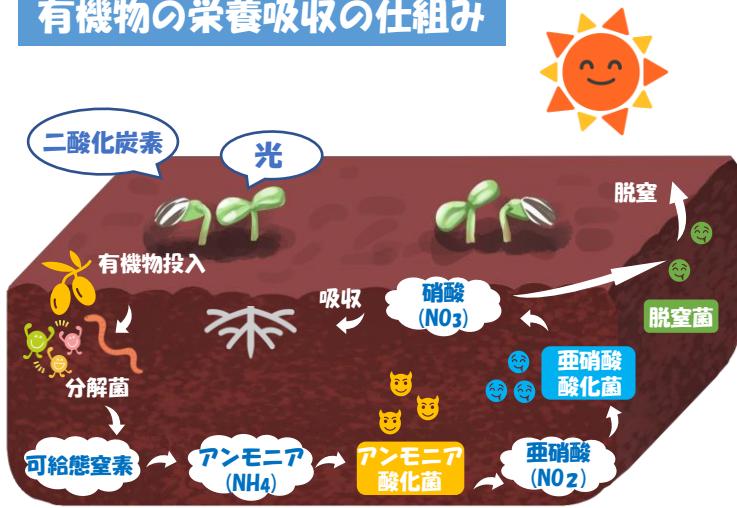
②竹パウダーを漉き込む際は散布直後に漉き込みを行う。

③苗植え・種まきは、漉き込み後三週間以上の期間を経てから行う。

・植物はどう育つ？：微生物の力が重要！



有機物の栄養吸収の仕組み



・有機物活用の注意点：C/N比とは？

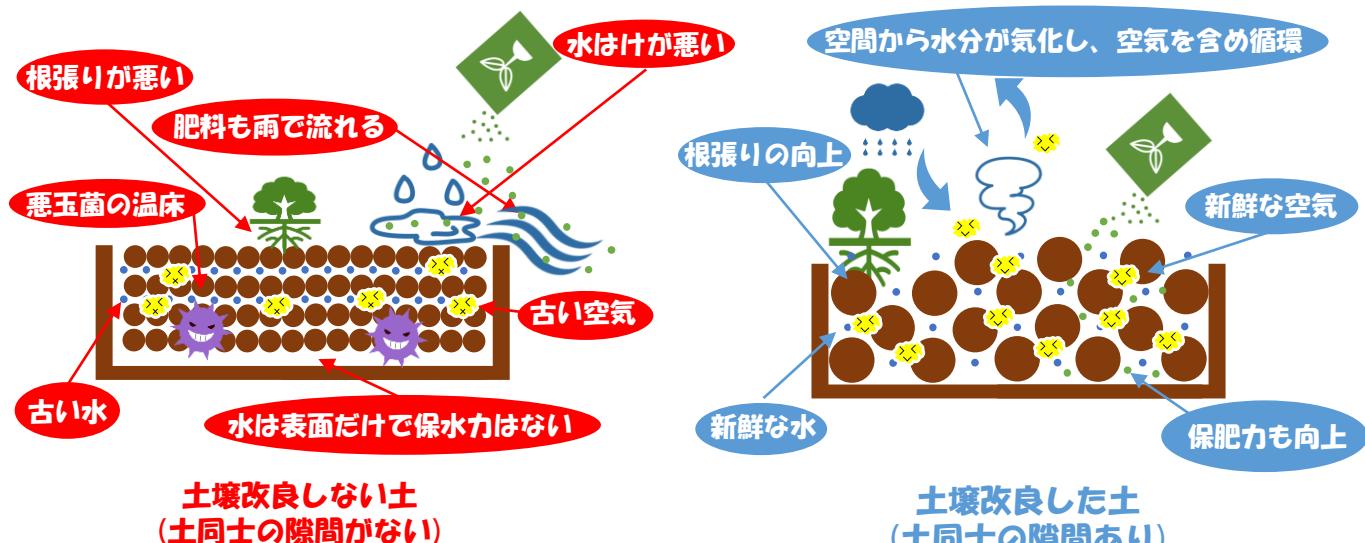


微生物も炭素と窒素を必要とします。
・炭素をごはん(活動エネルギー)に利用
・窒素をおかず(増殖)に利用

炭素を窒素で割った比率

- ・C/N比が20以下
分解が早く肥料効果が高い
- ・C/N比が20~30
理想的な比率
- ・C/N比が30以上
土壌改良効果が高い
(使用方法に注意が必要)

・土壤改良しないとどうなる？(土の固粒化)



・事例集(農家の声)



根張りが良く、苦味も少ない

粒も揃い、収量が上がった。

